



油絵での2作目に取り組む保坂さん



▲受賞作品

輝いています

ひと

ほ さか あか り
保坂 朱李 さん

1枚の絵に思いを込めて

豊

かな才能の育成と国際交流を深めることなどを目的とする高校生国際美術展。7月8日に審査結果が発

表され、応募点数1285点の美術の部から、絵の迫力と全体からみなざるエネルギーの強さが評価され、世界芸術文化振興協会会長賞を受賞したのが、浦和学院高校2年生の保坂朱李さん（17歳・塚越5丁目）です。

デザイナーである母の影響で、幼少期から絵に触れる機会が多かった保坂さん。自分の思いを言葉以上に表現できる絵画の魅力にひかれていきます。そんなとき、テレビで

ミケランジェロの特集を視聴。多分野で作品を世に残す多才さと芸術性に感動し、創作への意欲が強くなりました。高校はアートコースのある同校へ。授業に美術部の活動と美術漬けの毎日を送っています。今回の受賞作「生きるモノたちへ」は、保坂さんにとって初めての油絵での作品でした。巨大な海洋生物たちの中心に自分を置き、自身を取り巻く環境や心情をイメージ。始めは上手に描こうと繊細さを意識していましたが、やがて豪快に厚く塗り、生物に命を吹き込もうと方向転換し、内からあふれる創造力で力強く描き切りました。8月3日にはザ・リッツ・カールトン東京で表彰式が行われ、作品は10日から21日まで国立新美術館で展示されました。現在は気持ち新たに次回作を制作中。学校で知識を学びつつ、持ち味の自由な発想力と独自の表現力で、より良い作品にしたいと意気込みます。「今回の受賞を自信にして、いつかは世の中に残る作品を作っていきたいです」と保坂さん。心のキャンパスに夢への物語も描きながら、これからは挑戦は続いていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.78—

猩々（しょうじゅう）は中国を発祥とする空想上の霊獣（れいじゅう）です。日本では能（能「猩々」）に登場する猩々が赤頭（あかがしら）で大酒呑みであることから、猩々は赤色、酒豪などを象徴するものとなりました。晩斎は自身が酒好きで能狂言に精通したこともあってか、猩々を描いた作品が多く、「猩々」の画号を用いることもありました。本図の猩々たちは能装束姿で大きな酒壺（さかづき）を囲み、酒宴もたけなわのようです。鶴の背に乗り駆けつけたもの、それを笑顔で迎えるものなど、吉祥に満ちた作品です。

河鍋晩斎記念美術館 開催中

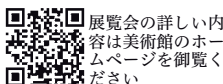
企画展「逢魔が時一晩斎が描いた妖怪変化」展
同時開催 特別展「『晩斎百鬼画談』の世界」展

開 館＝午前10時～午後4時
休 館＝火・木曜日（祝日除く）、
毎月26日～末日、年末年始
ところ＝南町4-36-4

入館料＝一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳 細＝同館（☎441・9780）



Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎

天保2年（1831）
～明治22年（1889）



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

晩斎筆「猩々の宴」
紙本墨画淡彩 軸装